

---

# 乾いた唇

皿尾 りお

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

乾いた唇

### 【Nコード】

N5993D

### 【作者名】

皿尾 りお

### 【あらすじ】

あなたにはわかるはずもないよね。ズルイよね。

目の前には、すごく綺麗な新しいビルが立っている。

世の中ってホント、ズルイと思う。

「悲しいことなんか何もないよ」と、浮かれた景色が、悲しみをぼやかしている。

ホント、ズルイ……。

私は、人ごみで溢れかえった街で、立ち止まる。

どこからともなく、陽気な音楽が流れてくる。

世の中ってホント、ズルイ……

悲しい言葉でさえ、浮かれたリズムに変えている。

……私が、弱すぎるだけ？

あなたが、欲しかったから、すべてをあなたに捧げただけなのに……

私があなたの前で、いくらおどけて見せても、あなたにはきっと痛々しかったんだね。

あなたが去って、夢から覚めれば、待っていたのはつまらない現実だけだよ。

最近、この街は寒すぎて、そのせいか、なぜか淋しく感じないの・  
・

涙も、もう、出ないよ。

今ならきつと、「さよなら」できそうだよ。

心にとげとげしく刺さった別れの言葉さえ、今じゃ心地いい痛みだよ。

あなたにはわかるはずもないよね？とまどいながらも愛したあの日々も、いい思い出も。

あなたの携帯番号もとっくに消したよ。

世間が悲しみをばやかしてくれるから・・・・

世間が悲しい言葉を浮かれたりリズムに変えてくれるから・・・

でもね・・・

でも・・・

私の頭の中は、消してくれないの・・・

あなたとの思い出も、携帯番号も消してはくれないの・・・

“プルルル、プルルル、プルルル・・・”

「はい・・・」

世間より何より、あなたが一番、ズルイ・・・

「もしもし、どうしたのー？あ、わかった・・・新しい人とうまくいってないんでしょ？」

・  
・  
・  
・  
私が、一番、ズルイの？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5993d/>

---

乾いた唇

2011年1月27日07時54分発行